

# 人にやさしい街づくり賞ガイドブックについて

## 1 目的

これまでの人にやさしい街づくり賞（以下、人街賞という）の取組の成果を活かすため、これまでの人街賞をレビュー（再評価し今後を展望）し、今後の「人にやさしい街づくり」の普及・啓発のためのガイドブックとしてまとめる。

## 2 経緯

- ① 平成26年度の推進委員会において、これまでの成果を取りまとめた人街賞20回記念記録集（ガイドブック）を作成し、普及啓発を図っていくことが決定した。
- ② 平成27年度の推進委員会において、以下について決定した。
  - ア ガイドブックの目的・構成について
  - イ 現地調査・ヒアリング対象団体の選定について
  - ウ レビュー者を第20回人街賞の選考委員とすること
- ③ 平成28年度から平成29年度にかけて、以下について、レビュー者と相談の上、現地調査・ヒアリングを実施し、ガイドブックとしてまとめた。
  - ア 各団体のレビューの担当者
  - イ 調査内容
  - ウ ヒアリング内容

## 3 作成方法

### (1) 現地調査・ヒアリング対象団体の選定

#### ① アンケート調査の実施

これまで人街賞を受賞した全団体に、(ア)～(ウ)についてアンケート調査を実施した。

- (ア) 「もの」、「活動」が人や街にどのような影響を与え、受賞時からどのように変化しているか。
- (イ) 現在も人にやさしい街づくりに寄与している「もの」、「活動」として継続している要因は何か。
- (ウ) 「もの」、「活動」と街との関係性や地域の中へどう開かれていくか。

#### ② 現地調査・ヒアリング対象団体の選定

アンケートの回答を基に、「継続に必要な要因」や「地域への広がり」等について、以下の項目を評価し、参考とすべき団体を選定した。

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| (ア) 施設改良について       | (イ) 施設の維持について     |
| (ウ) 施設の拡大・維持について   | (エ) 施設の積極的な活用について |
| (オ) 活動の拡大・質の向上について | (カ) 活動の維持について     |
| (キ) 活動の拡大・維持について   | (ク) 施設・活動の広報について  |
| (ケ) 地域への広がりについて    | (コ) 地域との関わりについて   |

### (2) 現地調査・ヒアリング対象団体のレビュー者の選定

各団体のレビュー担当者は第20回人街選考委員と相談し、選定した。

名称	区分	所在地	レビュー者
社会福祉法人A J U自立の家 (第1回大賞)	活動	名古屋市 昭和区	吉村 輝彦 (日本福祉大学 国際福祉開発学部国際福祉開発学科 教授)
一般財団法人まちの縁側クニハウス&まちの学び舎ハルハウス (第6回特別賞)	もの	名古屋市 千種区	倉田 あゆ子 (名古屋短期大学 現代教養学科 准教授)
特定非営利活動法人楽笑 (第15回賞)	活動	蒲安市	白石 知子 (中部大学 生命健康科学部保健看護学科 教授)
生協のんびり村 (第16回特別賞)	もの	東海市	平林 由果 (金城学院大学 生活環境学部環境デザイン学科 教授)
総合病院 南生協病院 (第17回大賞)	もの	名古屋市 南区	谷田 真 (名城大学 理工学部建築学科 准教授)

### (3) 現地調査・ヒアリングの実施

「継続に必要な要因」や「地域への広がり」等について明らかにし、今後の人にやさしい街づくりを展望するため、以下の項目についてヒアリングを実施した。

- |                   |                |
|-------------------|----------------|
| (ア) 団体の目的・理念      | (イ) 施設のバリアフリー化 |
| (ウ) 地域等との交流・連携    | (エ) 周知活動・情報発信  |
| (オ) 利用者の意見聴取、情報収集 | (カ) 人材育成       |
| (キ) 費用・予算         |                |

## 4 ガイドブックの活用

ガイドブックについては、「人にやさしいまちづくり」の普及・啓発のためのガイドブックとして広く県民に共有されるよう住宅計画課の Web ページにて公開するとともに、県・市職員を対象とした建設技術研修や出前講座等で活用していく。